

# オンライン学習者コンピテンシー標準をどう活用すればよいか

## How can a Set of Online Learner Competencies be Utilized?

鈴木 克明

Katsuaki SUZUKI

熊本大学大学院 教授システム学専攻

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

Email: ksuzuki@kumamoto-u.ac.jp

**あらまし**：国際職能標準として *ibstpi* が提唱してきた教育設計 (ID)、インストラクタ、研修管理者、評価者のコンピテンシー標準に加えて、新しい「職能」標準としてオンライン学習者コンピテンシー標準が発表される見込みになった。本発表では、教育の受益者側に「職能」標準を設定した背景にある意図に基づいて、これをどう活用すればよいかについて、オンライン学習者自身のみならず、教育提供者側も視野に入れて考察を加えた。オンライン学習環境で学ぶスキルを向上させるとともに、学習者にとってよりよいものにするためにオンライン学習者・学習支援者・教育提供者に様々な活用法があることが分かった。

**キーワード**：eラーニング、オンライン学習者、コンピテンシー、国際標準、活用法

### 1. はじめに

International Board of Standards for Training, Performance and Instruction (*ibstpi*®)は、1977年に米国に本部を置く教育工学領域の2つの学会(AECTと当時のNSPI)の合同タスクフォースとして設立された。1984年に独立した団体となり、15名の理事で構成されている(発表者が2007年1月に理事に就任)。コンピテンシー標準を開発・普及させることで教育専門家の職能を開発することと個人・組織の学習・職務遂行を高め、教育専門家の実践の質と品位を向上させることをミッションとしている。定められた研究手続きに基づいて、これまでにインストラクタ・インストラクショナルデザイナー・研修管理者・評価者の各職能標準を公開してきた(<http://www.ibstpi.org/>)<sup>(1)</sup>。

*ibstpi*では発表者を含む策定委員会を組織し、新しい「職能」標準としてオンライン学習者コンピテンシー標準の策定と公開の準備を進めてきた<sup>(2)(3)</sup>。今般、理事会の承認を得て「オンライン学習者標準」として発表される見込みになった。オンライン学習者標準は個人・学習・相互作用の3領域に合計14のコンピテンシーとそれぞれを支える合計78のパフォーマンス記述で構成されているリストである。本報告では、教育の受益者側に「職能」標準を設定した背景にある意図に基づいて、これをどう活用すればよいかについて、オンライン学習者自身のみならず、教育提供者側も視野に入れて考察を加える。

### 2. 受益者側に「職能」を求める背景と功罪

*ibstpi*内にオンライン学習者のコンピテンシーを考える委員会が設置されたのは2006年であった。広がりつつあるオンラインの学習環境で成功するための要因は何かを明らかにすることで、オンライン学習者のみならず、オンライン学習環境で働く支援者

や、オンライン教育を提供する教育機関にも有益な情報が提供できるとの前提に立っていた。*ibstpi*がそれまで、教育提供側の専門職能を策定することを通じて教育の質向上に資する活動を展開してきたことからみると、受益者側に何らかの基礎知識・スキルや行動を求めるというアプローチは新しいものであった。その背景には、オンライン学習環境で求められる学習者の高い自律性があり、ブレンド型の学習の広まりによって高い自律性が遠隔学習者のみならず通学制に学ぶ学習者にもより強く求められてきたことがあったと言えよう。

一方で、受益者側に一定の条件を期待するということは、『あの学習者たちが相手では、こちらがいくら頑張っても限界があるよね』という諦め、一種の責任転嫁<sup>(4)</sup>につながる恐れがある。オンライン学習者に求めるコンピテンシーをどのように活用すれば、学習者自身が、そして教育の提供者側が、互いにメリットを享受できるようなオンライン学習環境を構築していくことができるだろうか。以下に、活用方法の一端を提案していく。

### 3. オンライン学習者自身による活用

オンライン学習者自身による活用法の第一は、オンライン学習受講前にオンライン学習における成功の秘訣としてリストを学び、自身をよりよく準備することが挙げられる。第二に、学習を開始した後も、日々の行動をリストを用いてチェックして目標を定め、オンライン学習者としての自身を磨いていく道具とする。第三に、オンライン学習での体験を通じて学んだコツを同級生等と共有する際に、成功・失敗の理由を解釈する道具としてリストを用いる。第四に、定期的にオンライン学習者としての自分自身を振り返って省察し、長所や短所を確認するためにリストを用いる。第五に、より成功できるオンラ

イン学習者に成長するための試金石としてリストを活用する。第六に、オンライン学習に関わる成功体験やヒントなどを学ぶときにリストで解釈する。

オンライン学習は高い自律性が求められると言われているが、オンライン学習を選択する（あるいはそれしか選択肢がない）学習者が必ずしも高い自律性を最初から備えているとは限らない。オンライン学習の経験を通じて、学習内容に精通するようになることだけでなく、オンライン学習環境でより良く学べるようになることを目指すとすれば、オンライン学習者の「職能」を意識することが有効であろう。それは、オンライン学習機会が増え、オンラインでの学習資源を活用できるかどうか学習の成否を左右する情報通信社会における「よりよい学び手となる」ためのヒントとなるであろう。

#### 4. 学習支援者による活用

オンライン学習環境で学習者を支援する仕事に従事するインストラクターやメンター、あるいはチューターと呼ばれる人たちも、オンライン学習者のコンピテンシーリストを学ぶことで様々なメリットが享受できる。第一に、オンライン科目を教える者としての準備をするときにリストを活用し、支援方法を考える。第二に、学習者を成功に導くという観点からこれまでの教え方や振舞い方の是非を振り返る。第三に、オンライン学習のいつどの場面でのどのような支援が必要になりそうかを予測して対応する。第四に、オンライン学習者にとって現在の教育方法が最善かどうかを再検討し、必要に応じて代替案に切り替える。第五に、自身の職能向上に向けて、インストラクター職能標準とオンライン学習者標準を両方参照することでヒントをつかむ。第六に、学習内容の習得だけでなく、より有能な学習者に成長する機会となるように意識した学習活動を取り入れる。

旧来からの通信教育において学習支援を担ってきた人たちは、遠方において直接支援の手が届きにくい学習者をどう中断させずに完了させるかについてのノウハウを蓄積・発展させてきた。一方で、オンライン学習環境も旧来のものとは異なり、様々な要素の組み合わせが可能になっており、新しい可能性が開けるとともに新しい問題点も浮上している。さらに、ブレンド型教育の普及も伴い、オンライン学習環境でも教える人たちの数は増えており、教室での対面学習との差異に戸惑う場面も今後も増えていくだろう。遠隔学習やオンライン学習を経験したことがない学習支援者には、とくに有用なツールとなるのではないだろうか。

#### 5. 教育提供組織による活用

一方で、教育提供機関としてはオンライン学習者コンピテンシーをどのように活用することができるだろうか。第一に、オンライン教育を受講している（あるいは受講を予定している）学習者に成功要因

を伝えるために用いることができよう。第二に、オンライン学習者に対してリストに基づく研修などの機会を提供し、準備度を高めることができる。第三に、オンライン学習環境を点検する際にリストを活用し、学習者にとって良い環境を提供しているといえるかどうかを点検・改善する。第四に、オンライン学習者が遭遇するであろう問題が何かをリストを活用して予測し、それに対して学習支援者が手助けを提供できるような準備を組織的に行う。第五に、オンライン学習者の成功を支えるという観点から運用規定などを制定あるいは改訂する。第六に、オンライン学習環境全体を評価するためにリストを用いる。

オンライン教育に限らず、どの形態の教育においても受講者の意見を反映して教育の改善に取り組むことは日常化した。一方で、受講者からの反応を待たずとも、教育機関ができることは多くある。オンライン学習者に必要なコンピテンシーと他の提供者側の職能標準（インストラクショナルデザイン・研修管理）とをあわせて活用することで、学習者にとって学びやすい環境を構築するために役立てることができると思われる。

#### 6. おわりに

本稿では、ibstpi が策定したオンライン学習者のコンピテンシーの活用方法について、学習者自身、学習支援者、及び教育提供機関のそれぞれ何ができるかについて述べてきた。ibstpi は、所定の手続きに基づいて国際的に幅広く適用可能な「職能」を提案することで教育の質向上に役立てて欲しいと願っているが、その一方で、社会文化的な特徴や領域固有性に配慮した改編は利用者に委ねている。また、職能リストは策定するが、その習得度を評価・認定したり、より高いレベルの職能を身につけるための教育研修を提供することもしていない。我が国のオンライン教育の質を向上させ、またオンライン学習から最大限のメリットを引き出す能力を備えた学習者（あるいは学習支援者）をどのように育成していくか、具体的な動きが活発化することを期待したい。

#### 参考文献

- (1) 鈴木克明・根本淳子・松葉龍一：“教授システム学専攻修士生コンピテンシーの外的妥当性”，日本教育工学会第23回講演論文集，pp.915-916（2007）
- (2) 鈴木克明：“オンライン学習者の挑戦と成功要因：アンケート調査結果から”，日本教育工学会第25回全国大会講演論文集，pp.419-420（2009）
- (3) Grabowski, B., Kurtz, G., Jung, I., Beaudoin, M. & Suzuki, K.: Online Learner Competencies: Results of a Worldwide Validation Study. In Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2011 (pp. 1929-1935). Chesapeake, VA: AACE, <http://www.editlib.org/p/39010>. (2011).
- (4) 鈴木克明：“学習経験の質を左右する要因についてのモデル”，教育システム情報学会研究報告，24(4)，74-77（2009）